



写真-1 県立淡路島公園・昭和池に架かる塩屋橋（平成25年9月）

■ 兵庫県が架けた最初の鋼橋「塩屋橋」

上の写真は、県立淡路島公園^{※1}の昭和池^{※2}に架かる園路橋「塩屋橋」で、橋長 59.6m、幅員 2.1m、3 連の単純曲弦ポニートラス橋^{※3}です。

この橋のルーツは、大正 7（1918）年 6 月、洲本市内を流れる洲本川に架けられた塩屋橋で、兵庫県が架けた最初の鋼橋です。昭和 33（1958）年に撤去されましたが、但馬の地で県道橋として再利用された後、昭和 61（1986）年再び淡路島に帰ってきたものです。

それでは、塩屋橋ポニートラス桁の系譜をたどってみます。



写真-2 塩屋橋

※1 淡路島公園：淡路市楠本にある県立都市公園。開園面積 134.8ha という広大な緑地空間で、“花と緑と人のふれあい”をコンセプトに昭和 52（1977）年度から整備が始まり、昭和 60（1985）年 4 月に開園した。明石海峡から大阪湾までパノラマの海を望む風光明媚な淡路島北部丘陵地帯に位置する。明石海峡大橋や神戸市街を望む淡路島随一の夜景と星空のビューポイントであり、年間約 200 万人が訪れる。「淡路ハイウェイオアシスゾーン」、「森のゾーン」、「交流ゾーン」、「草原と花のゾーン」の 4 ゾーンで構成される。

※2 昭和池：鶴崎川（普通河川）に築造された灌漑用溜池で、昭和 19（1944）年に完成している。堤高 23m、堤長 70m、堤体積 31,000m³のアースダムで、湛水面積 1ha、総貯水容量 62,000m³。

※3 ポニートラス橋：主構にトラス（三角形の集合体）を用いた橋梁の一型式。左右の主構のみで上横構がないもの。小規模な中路・下路トラス橋に見られる。

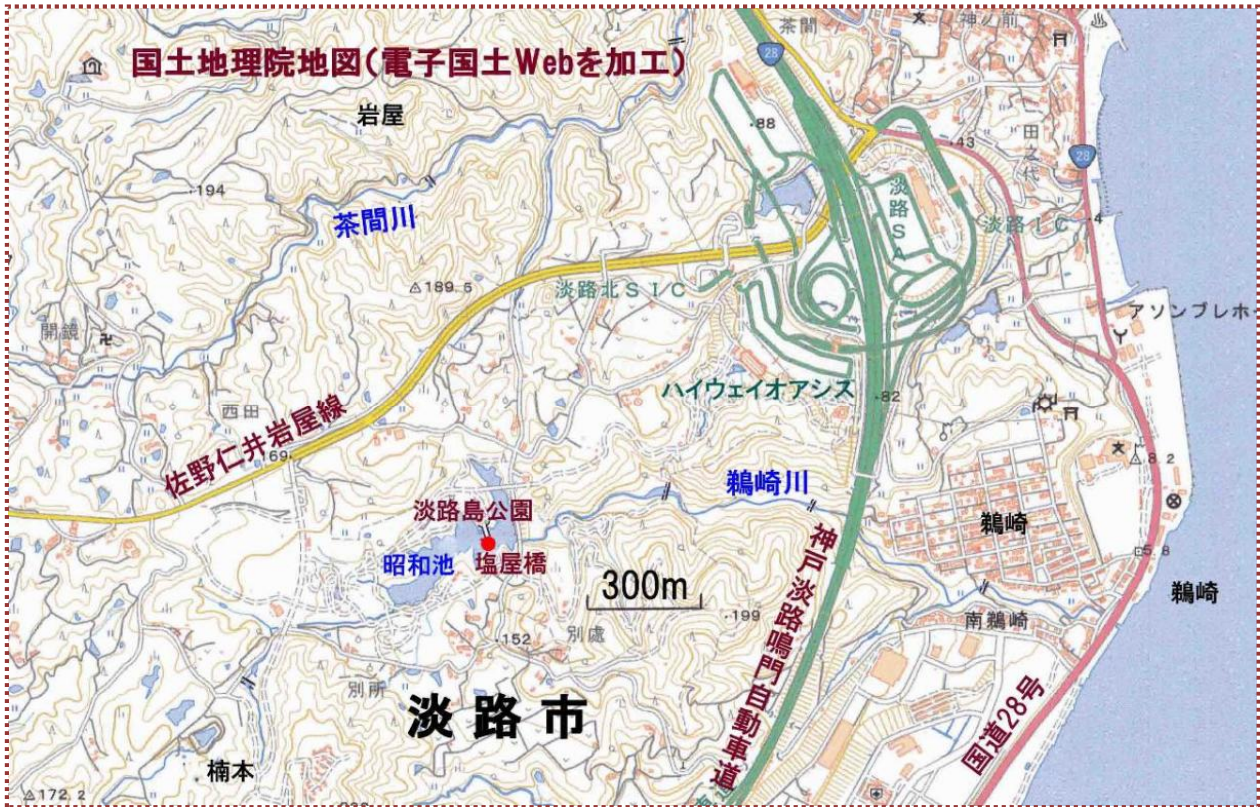


図-1 昭和池周辺の地図

■ 塩屋橋のルーツは洲本川に架けられた塩屋橋

洲本川は、洲本港改修の一環として明治 37 (1904) 年現在の位置に付け替えられましたが、その際、新川開削によって分断された潮村を結ぶため、洲本川に塩屋橋 (木橋) が架けられました (写真-3)。(洲本川付け替えは No.29「洲本川」参照)

なお、明治 42 (1909) 年 4 月、洲本町は、潮村、物部村と合併して改めて洲本町が発足しています。

大正 7 (1918) 年 6 月、塩屋橋は木橋から鋼橋に架け替えられます (写真-4)。橋長 120m、6 連のアーチを連ねた単純曲弦ボニートラス構造で、これが昭和池に架かる塩屋橋のルーツです。

設計荷重は 6 t、幅員は約 3.5m で、鋼材は官営八幡製鉄所においてイギリス規格で製造されたものです。架設当時の塩屋橋の桁の色は、地元の古老によると赤レンガ色だったとか (写真-4：橋の向こうには鐘淵紡績の工場)。

この橋は、約 40 年間、国道 28 号と洲本市街地を結ぶ重要な役割を担ってきましたが、橋の老朽化とモータリゼーションの到来に伴う洲本市街地への交通量の増加に対応するため、昭和 33 (1958) 年 4 月塩屋橋のすぐ上流に新たに洲本橋が架けられました (写真-5)。

設計荷重 20 t、有効幅員 7m、島内初のプレストレスト・コンクリート橋 (PC 単純 T 桁橋) です。



写真-3 洲本川に架けられた塩屋橋 (木橋)
(「すもとばし橋詰広場」の展示写真から引用)

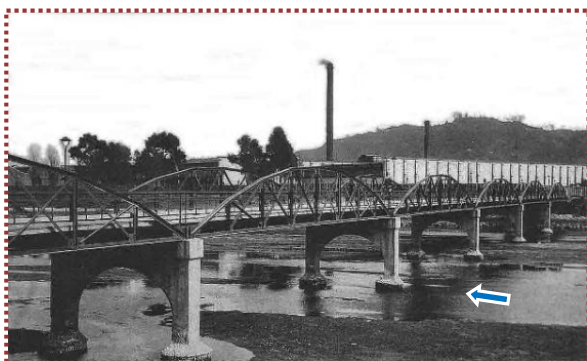


写真-4 洲本川に架けられた塩屋橋 (『淡路今昔写真集』から引用)

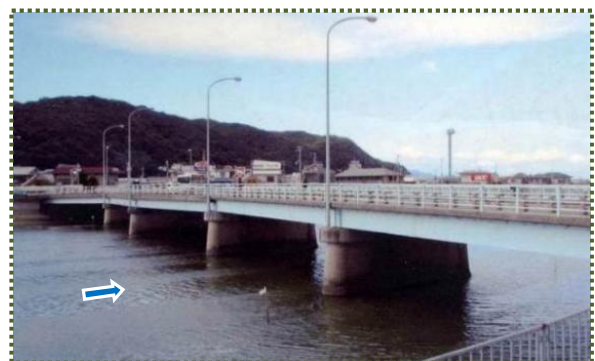


写真-5 旧洲本橋 (「すもとばし橋詰広場」の展示写真から引用)

■ 撤去された6連のトラス桁は県の財政事情から再利用することに

トラス桁の再利用はよくある話で、洲本橋新設に伴い撤去された6連のトラス桁も、県の財政事情から再利用されることになります。再利用先を探した結果、交通量の少ない但馬の路線への再利用が決まりました。

■ トラス桁5連は浜坂町の戸田橋へ

撤去された6連のトラスの内5連は、昭和33(1958)年11月に美方郡浜坂町(現・新温泉町)戸田(へだ)地先の岸田川に戸田(へだ)橋として架けられました。

戸田橋は、橋長109.5m(5連の単純曲弦ボニートラス+1連の単純RCT桁)ですが、縦桁および床板は木でできていて、当時の橋梁台帳には「橋長100m以上としては兵庫県最後の木橋」と記されていたそうです。

一般県道263号竹田指坑(たけださしくい)線の橋として約25年間供用されましたが、老朽化と耐荷力不足のため昭和58(1983)年に架け替えられました。新橋は、3径間単純活荷重合成桁の一等橋で、L=110.2m、W=8.5mです(写真-7)。



写真-6 岸田川に架かる戸田橋の渡り初め(昭和33年11月8日)
〔『全建ひょうご109号』から引用：浜坂町役場・木本善一氏提供〕

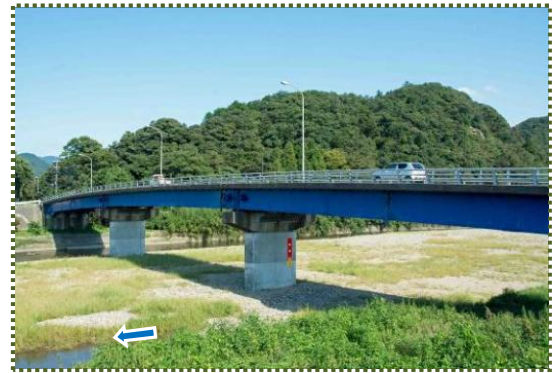


写真-7 現在の戸田橋

■ トラス桁1連は美方町の矢田川橋へ

残る1連は、美方郡美方町(現・香美町小代(おしろ)区)神水(かみずい)地先の矢田川(やだがわ)に矢田川橋として架けられました。この橋の右岸側の親柱には、架橋年月として「竣昭和三十三年十月」と刻まれた銘板がはめ込まれていません(写真-12)。トラス桁の塗装がすっかりはげ落ちてしまっているのが残念ですが、すでに百歳を軽く超えています。

昭和50(1975)年3月、この橋のすぐ上流に新しく「矢田川橋」(歩道付き：写真-8)が架けられたため旧橋を利用する人はほとんど見かけませんが、現在も歩道橋として香美町が管理しています。

なお新橋は、1径間H型鋼活荷重合成格子桁の二等橋で、L=24.06m、W=7.5~9.0m(車道)+1.5m(歩道)です。また、橋歴板には、「1975年3月 兵庫県建造」と記されています。



写真-8 矢田川橋(県道橋)



写真-9 県道橋直下流に架かる矢田川橋(町道橋)



写真-10 右岸側から見る矢田川橋（町道橋 W=2.5m）



写真-11 右岸側左の親柱



写真-12 右岸側右の親柱

■ 貴重な近代土木遺産として保存

旧戸田橋は昭和 58（1983）年 1 月新橋完成に伴い撤去されることとなりますが、5 連のトラス桁は県が架けた最初の鋼橋であったことから惜しむ声が高く、移設保存が検討されることとなりました。保存適地を探した結果、淡路への里帰りという意味も含めて、昭和 60（1985）年の部分開園に向けて整備中だった県立淡路島公園が園路橋として 3 連を受け入れることとなり、受け入れ態勢が整うまでの間、石川島播磨重工業（現・IHI）の相生工場において保守管理されることに。

そして、昭和 61（1986）年 3 月淡路島公園内の昭和池に 3 連トラスの園路橋が架けられました。平成 14（2002）年 8 月 21 日には、貴重な近代土木遺産として国の登録有形文化財に指定されています。

平成 16（2004）年 1 月には橋面改築・補修工事が行われていますが、おそらくこの時にトラス桁の色もアイボリー（右の写真-13）から現在のグリーン系の色に塗り替えられたものと思われる。塗装の色を変更した理由は定かではありません。

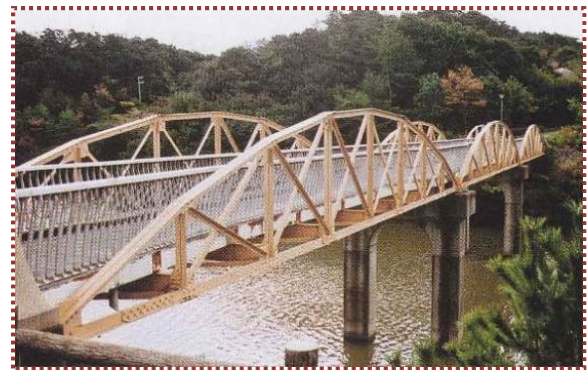


写真-13 平成 14 年頃の塩屋橋（『全建ひょうご・109号』から引用）

■ 新・洲本橋の右岸広場にも塩屋橋の遺物を展示

昭和 33（1958）年に架けられた洲本橋は、平成 16（2004）年 10 月の台風 23 号災害に基づく河川激甚災害対策特別緊急事業により架け替えることとなります。

洲本川の改修は、引堤は行わず河川中央部の河床を約 2m 掘り下げることにより河積を確保するものですが、河床掘削により洲本橋の橋脚が根入れ不足となり河川管理上支障となるためです。

新・洲本橋（右の写真-14）は、旧橋の上流に架けることになり、平成 18（2006）年度に工事着手し、平成 21（2009）年 12 月 5 日に供用開始しています。新橋は、L=116m、W=2.5m（歩道）×2+7.0m、4 径間連結 PC ポストテンション方式の T 桁橋で、逆 T 式コンクリート橋台、杭基礎は直径 1,200mm の場所打ちコンクリート杭が使用されています。



写真-14 現在の洲本橋

平成 23（2011）年 3 月には、洲本橋右岸側の旧道敷を活用して「すもとばし橋詰広場」が整備され、洲本川改修の歴史とともに昭和 33（1958）年まで洲本橋下流に架かっていた塩屋橋の親柱や橋脚基礎も展示されています。

この親柱は、平成 22 (2010) 年の秋頃、洲本土木事務所の M 所長が休日に散歩がてら洲本市山手にある「淡路文化史料館」を訪れたところ、庭に塩屋橋の親柱が 2 基置かれているのを発見、復興事業第 2 課の T 主査が所長の指示を受けて確認に行くと、さらにもう 1 基見つかり、所長の「ほな、全部もらっとこ。」との指示を踏まえて洲本市教育委員会と協議し、移管手続きをしたものだそうです。県に移管された 3 基の親柱のうち 2 基は「すもとばし橋詰広場」に展示、残りの 1 基は昭和池に架かる塩屋橋の袂に設置されました (写真-19 参照)。

橋詰広場の親柱には、それぞれ「塩屋橋」、「大正七年六月架」と刻まれています。昭和池の方はなぜかのっぺらぼうです。

一方、旧塩屋橋の橋脚 5 基は、平成 17 (2005) 年まで撤去されずに川中に残されていましたが、同年 12 月 2 日から 10 日の間に隣接する水管橋とともに撤去されました。

その際、塩屋橋の橋脚基礎については、直径 200mm の松杭を基礎杭として使用した跡が見られる貴重なものということで、当時の H 県民局長が「是非保存してほしい。」と語っていたことを思い出した M 所長は、洲本港の岸壁の隅に仮置きされていた橋脚基礎を探し出し、橋詰広場に移設・展示しています。



写真-15 すもとばし橋詰広場



写真-16 塩屋橋親柱



写真-17 塩屋橋親柱

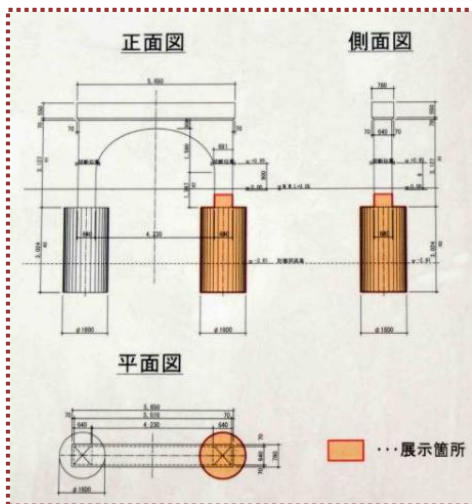


図-2 橋脚基礎の展示箇所

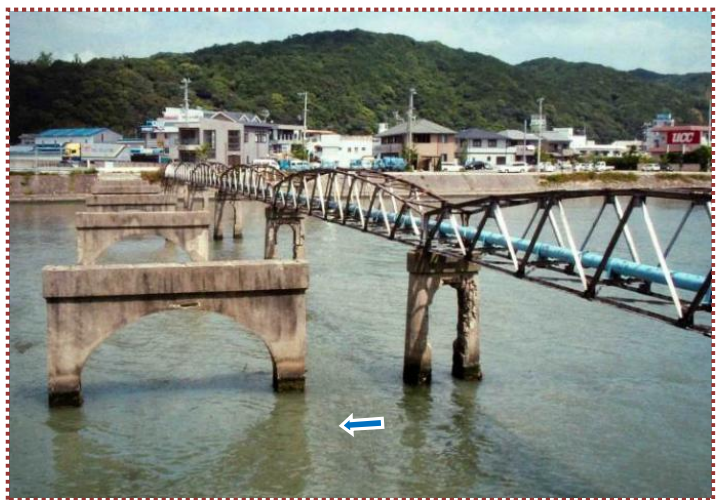


写真-18 塩屋橋の橋脚 (平成 16 年頃撮影) 隣は昭和初期完成の水管橋

※ 図-2 および写真-18 は、「すもとばし橋詰広場」の展示写真から引用・加工

■ モノローグ

平成 23 (2011) 年 3 月 13 日 (日)、平成 16 (2004) 年災害からの復興記念イベントとして「洲本川レガッタ」が行われる予定でした。その時に併せて「すもとばし橋詰広場」も完成のお披露目をするべく関係者は準備を進めてきました。しかし、残念ながら 3 月 11 日に発生した東日本大震災により中止、その年の 11 月に改めて第 1 回洲本川レガッタが開催されました。

以後毎年開催され、平成 26 (2014) 年 9 月 7 日には第 4 回のレガッタが開催されています。淡路県民局も土木事務所から 2 チーム、農林事務所から 1 チームが参加したとか。

ところで、大正 7 (1918) 年に架けられた塩屋橋のトラス桁 6 連は、今も 1 連が香美町で、3 連が淡路市で使用されています。

残る 2 連がどうなったのか気になりますが、おそらくスクラップとして処分されたものと思われます。



写真-19 塩屋橋の袂に設置された説明板と親柱

兵庫県立公園『あわじ花さじき』

淡路島公園と同じ所在地ではあるが、こちらは南西方向に約 3.4km のところにある。花の島にふさわしい花の名所として、兵庫県が平成 10 年 4 月に設置している。淡路島北部丘陵地域の頂上部、標高 298~235m の海に向かってなだらかに広がる高原に四季折々の花畑が広がる。(面積約 15ha) 明石海峡・大阪湾を背景に花の大パノラマが展開し、季節により変わる愛らしい花々が夢の世界に誘う。眼下に広がる花のジュウタンを楽しめる、極上の見物席として、『あわじ花さじき』と命名された。



写真-20 あわじ花さじき (花はポピー)

【参考資料】

- 1 『全建ひょうご・第 109 号』 兵庫県建設技術協会 平成 14 年 9 月
- 2 『主要地方道 洲本灘賀集線 洲本橋』パンフレット 兵庫県淡路県民局洲本土木事務所 平成 21 年
- 3 『洲本川改修だより』 第 7,10,13,54,69,71 & 72 号 洲本土木事務所
- 4 『天空の花畑を望む極上のさじき席』 兵庫県立公園あわじ花さじき HP
<https://awajihanasajiki.jp/about/>
- 5 『トラス橋』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

※発行：平成 27 (2015) 年 5 月 『ひょうご水百景』 No.48
改訂：令和 8 (2026) 年 4 月 『ひょうご水百景』 No.48